

コンタクトレンズ処方の手順について

適切なコンタクトレンズを処方するには時間と手間がかかります。
また、専門的な知識と高度のスキルが必要です。

1. コンタクトレンズ(CL)処方の手順

診察や検査の内容、順番は目の状態や、コンタクトレンズの種類、装用経験などによって変わってきますが、おおむね1時間から2時間かかります。以下に一般的な流れについて示します。

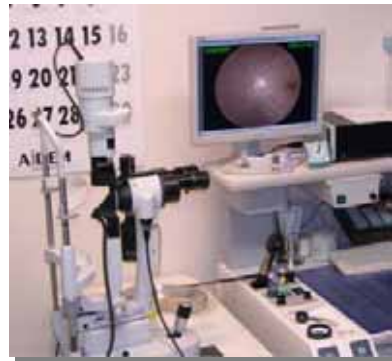
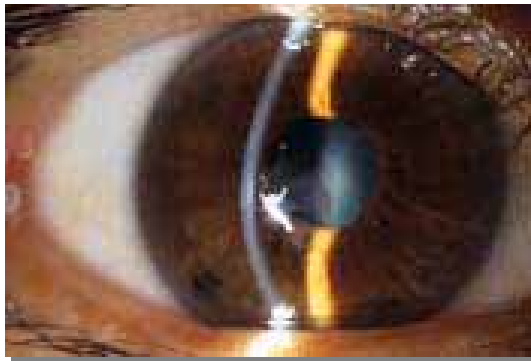
問 診

眼の状態に応じた適切なコンタクトレンズを選択し、最適なレンズフィッティングと適切な度数で処方するために、装用者の生活状況や希望などを問診します。



診 察

目に何か病気がないか、コンタクトレンズが使用できる目なのかを眼科医が診察します(細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査など)。



屈折検査・角膜形状計測

近視、遠視、乱視の種類や程度を調べます。



視力検査

裸眼の視力のほかに、レンズで矯正してどれくらい見えるか検査します。



涙液検査

涙の量を検査してドライアイかどうかをチェックします。ドライアイの方はコンタクトレンズを使用するとすぐに目が充血したり、ショボショボしたりするので注意が必要です。ひどいドライアイではコンタクトレンズの装用が出来ない場合もあります。



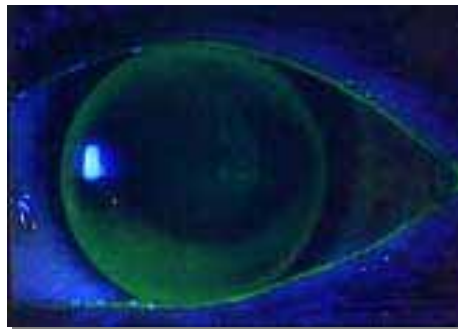
角膜内皮細胞検査

角膜内皮細胞の状態が悪いとコンタクトレンズの使用が難しいことがあるので、そのチェックも必要です。



フィッティング検査

以上のスクリーニングをパスした方は、黒目(角膜)のカーブを調べ、それに合ったテスト用のコンタクトレンズを目に入れて、レンズの安定位置や動きなどを観察し、レンズのカーブやサイズ、デザインなどを決めます。



度数補正

テスト用コンタクトレンズを入れた状態で視力検査を行います。



レンズ規格の決定

コンタクトレンズの度数を決定します。うまくコンタクトレンズがフィットしない場合や十分な視力が出ない場合は、他の種類のコンタクトレンズを入れて、また改めて検査が必要なこともあります。特に、ハードコンタクト

レンズの処方では、一番バランスよく装着できるレンズを探すため、何枚ものテストレンズを試しながら良好な視力が得られるまで検査を続けます。このため、極めて洗練された処方技術が必要です。

2. 装用指導

装用練習は使用説明書に従い行います。処方コンタクトレンズの特徴、装用スケジュール、レンズのケア方法、定期検査、装用際の注意事項、トラブル発生時の対処法などの説明を受けます。

3. 定期検査

定期検査は原則としてコンタクトレンズ処方後1～2週間後、1ヵ月後、3ヵ月後、それ以降は3ヶ月毎に実施します。定期検査の項目は、コンタクトレンズでの矯正視力検査、眼科的検査、レンズフィッティング、コンタクトレンズの状態の確認、装用状況、レンズケアの問診などです。

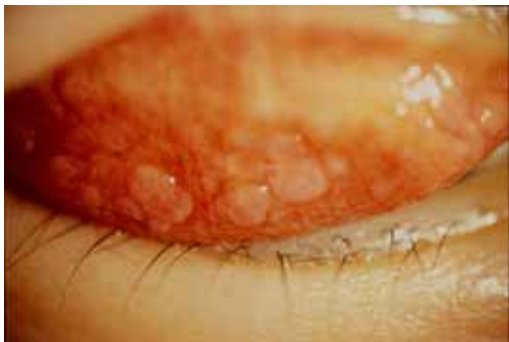
4. コンタクトレンズ装用に伴う眼合併症

目に異常を感じたら、直ちにコンタクトレンズを外し、眼科を受診することが必要です。角膜感染症の場合、対応が遅れると、失明に至る事もあります。また、自分ではレンズ装用に問題がないと思っても、知らない間にレンズが汚れていたり、変形や破損などが生じたりする場合がありますので、定期検査を必ず受け、処方した医師に異常がないかチェックしてもらう必要があります。眼合併症に対する的確な診断、適切な治療は眼科医でなければ行えません。これが、定期検査や異常発生時には、是非とも眼科専門医を受診していただきたい理由なのです。

以下に代表的な眼合併症をお示しします。

1) 巨大乳頭結膜炎

レンズの汚れと機械的な刺激によるアレルギー反応の一種と考えられています。上まぶたの裏にぶつぶつとした隆起(乳頭)が出来て、レンズが曇りやすくなったり、ずれやすくなったりします。従来型ソフトコンタクトレンズ装用者にみられたものです。



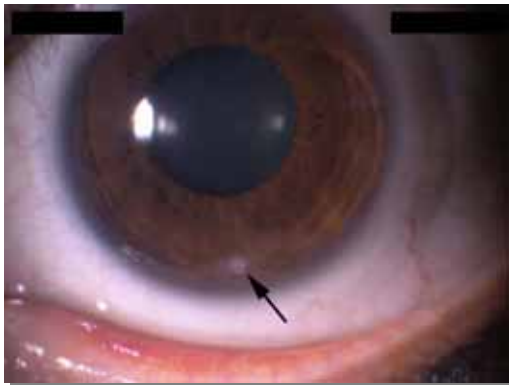
2) ハードコンタクトレンズの固着

レンズ・カーブが不適切な例で起こります。写真は、特殊なフィルターを使って観察しているものです。リング状に見えているところがコンタクトレンズ・エッジによりの圧迫により変形しています。



3) 周辺部角膜浸潤

角膜の一部に炎症が起こった状態を指します。フィッティングのよくないソフトコンタクトレンズを装用し続けて発症した例です。



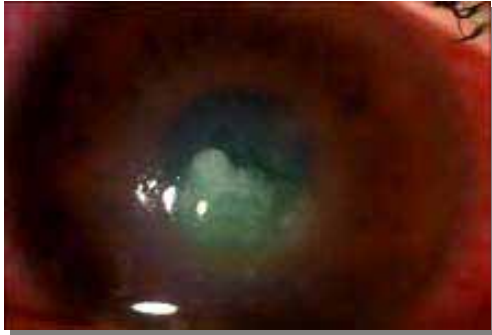
4) 結膜充血

過酸化水素消毒剤で中和をし忘れた時に起こったものです。白目(結膜)の充血と同時に角膜にも傷ができます。



5) 細菌性角膜炎

角膜に細菌が感染すると深い傷(潰瘍)を作り、炎症が生じて角膜が濁ってしまいます。この例では2週間交換型の頻回交換ソフトコンタクトレンズを、使用期限を守らずに長く装用し続けていました。こすり洗いも十分でなかったようです。



6) アカントアメーバ角膜炎

アカントアメーバはいたるところに生息する病原体で、貯めた水のなかには特にたくさんいます。レンズやレンズケースのケアが不適切な場合、アメーバに汚染されやすくなります。この例では日頃ソフトコンタクトレンズを水道水で洗浄し、保存していました。

